



よいみや
宵宮の田乃坂越え、
力が入りました。



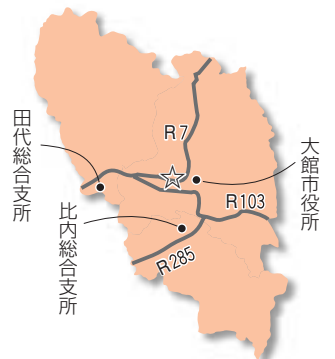
歩いて会って何でも話す
ワクワクの突撃取材

あつてグッド¹⁶

市民の皆さんが
たくさん登場

☆今回訪ねたのは
「大町地区周辺」

H18. 9.11取材



飾人形曳山車の相染講

9月に入っても、いまだ日中は猛暑の名残が幅をきかせているようですが、朝夕の涼しい風にびっくりすることも。ン？どこからともなく聞こえてくる笛太鼓。ピンゴ！大館神明社のお祭りで正解。このお囃子を聞いて、黙っていられる大館っ子なんかおりません。お祭りでにぎわう街中に突撃取材！

ごうかけんらん
豪華絢爛な山車がそろいぶみ

400余年の歴史と伝統を誇る大館神明社の祭典。毎年30近い山車(やまこ)や神輿が市内を練り歩きます。各山車が奏でる大館囃子は、伝えによると京都祇園囃子の流れをくむものとか。昨日の宵宮は、時折雨に見舞われる悪天候でしたが、雨祭りの異名を持つこの祭り。田乃坂越えを駆け上がる各「曳山車」に、雨や風などはノープロブレム(問題なし)。今日は天気も上がって、各山車ともパワー全開か。

お昼休みの相染講を発見。早速インタビュー開始。阿部

和夫さん(相染町)は、息子と和年さんとその奥さんの扶佐子さん、またその子の美桜ちゃん



こんなかわいい
踊り方さんも

(八幡幼稚園)の3世代での参加。「相染講は始めてから31年目になるが、最初から参加している」と和夫さん。最初は旧角館町の人からアドバイスを受け、コツコツと山車を造ったんだとか。「私も父に習って、これからも続けていきます」と和年さん。走り回る美桜ちゃんと3代に渡る祭り好き。ムム、相染講は先々も安泰間違いなし。

大町交差点では、山車でろい競演がスタート。各講とも自慢の山車とパフオーマンスでオリジナルを強烈にアピール。演技が終わるたびに、沿道にあふれる観衆から盛大な拍手が起ります。最前列のベロンチで仲良く見物しているのは、音藤金雄さん(神山)と奥さんの逸子さん。「毎年楽しみに



左から扶佐子さん、和年さん、和夫さん、
「バレエを習ってるの」と美桜ちゃん。

※やまは、「山」、「山車」など地方によって表記が異なり、大館では「山車」としています。